

トップメッセージ

装置受注が好調に推移し、 増収増益となりました。

好調な受注を背景に稼働率が向上し 利益率の改善が進みました。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日～平成27年9月30日）におけるわが国経済は、中国市場に対する警戒感が強まり、市場ごとに好不調が混在する状況があったものの、円安基調の継続などを背景とした堅調な企業業績もあり、緩やかな回復基調が続きました。世界経済については、米国景気に支えられ全体としては底堅さが見られましたが、欧州金融不安に加え、中国を中心にアジア全般で成長が鈍化していることなどから先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、主にスマートフォン関連の需要が好調に推移し、当社グループの主要な取引先である光学・電子デバイス業界を牽引しました。特に圧電部品に関する設備投資が積極的に展開されました。また、デバイスメーカー各社の次世代製品に向けた取り組みが継続いたしました。

当社グループでは好調な市場を捉え拡販に注力するとともに、既存技術応用分野や新規市場の開拓にも継続性を持って推進してまいりました。また、次世代製品に向けたデバイスメーカーからの依頼実験への対応や製品開発にも積極的に取り組んでまいりました。

生産面では、好調な受注を背景に生産量が増加し稼働率が向上しました。また、メンテナンス性の改善や社内検査の強化による品質向上を継続してまいりました。

損益面では、量産効果や稼働率の向上による原価低減効果に加え、グループ一丸となって取り組んでいるコストダウン推進などにより利益率の大幅な改善が進みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高56億34百万円（前年同四半期比41.9%増）、売上高49億76百万円（同39.0%増）となりました。

損益につきましては、経常利益5億79百万円（前年同四半期比745.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億65百万円（同731.2%増）となりました。

代表取締役社長

小俣 邦正
Kunimasa Omata



スマートフォン向電子部品製造用装置 の受注が好調でした。

真空技術応用装置事業の業績につきましては、主にスマートフォン向け電子部品製造用の設備投資が好調に推移いたしました。

受注高は47億37百万円（前年同四半期比55.0%増）、売上高は40億79百万円（同52.9%増）、セグメント利益は8億19百万円（同232.8%増）となりました。

水晶デバイス業界では、主に周波数調整工程向けの最新装置の拡販を推進してまいりましたが、設備投資に対する力強さに欠ける状況で推移いたしました。

水晶デバイス装置の受注高は4億83百万円（前年同四半期比20.8%減）、売上高は7億75百万円（同18.7%増）となりました。

光学業界では、主にマイクロレンズ向け反射防止膜成膜用装置の受注が堅調に推移いたしました。受注競争が激しい中、地道な営業活動を展開し利益確保に努めた結果、前年同四半期に比べ相対的に国内向け設備投資案件が増加傾向となりました。

光学装置の受注高は9億15百万円（前年同四半期比31.7%減）、売上高は9億22百万円（同34.5%減）となりました。

電子部品業界では、スマートフォン向け圧電部品の製造用装置受注が好調に推移するとともに、納入も順調に進みました。また、既存技術応用分野及び新規市場の開拓について継続して推進してまいりました。

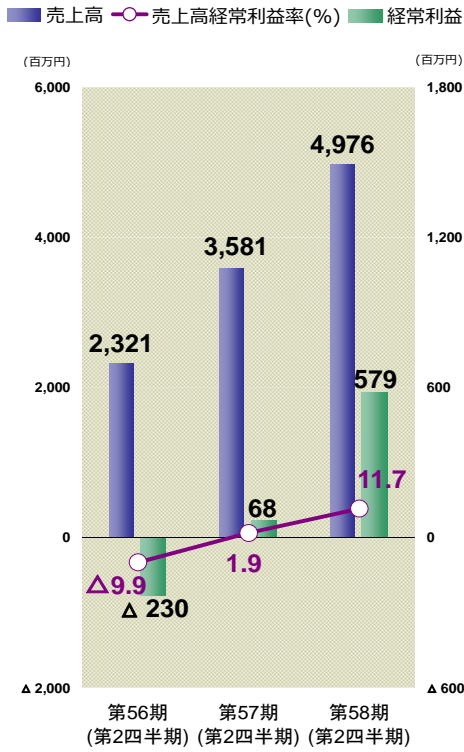
電子部品装置・その他装置の受注高は33億38百万円（前年同四半期比202.0%増）、売上高は23億81百万円（同292.3%増）となりました。

サービス事業につきましては、ユーザーに対する当社装置の稼働状況の定期的な確認を励行するとともに、生産終了に伴うサポート終了品及び更新機種のご案内などを積極的に行い、装置の改造・修理や消耗品の販売に努めてまいりました。

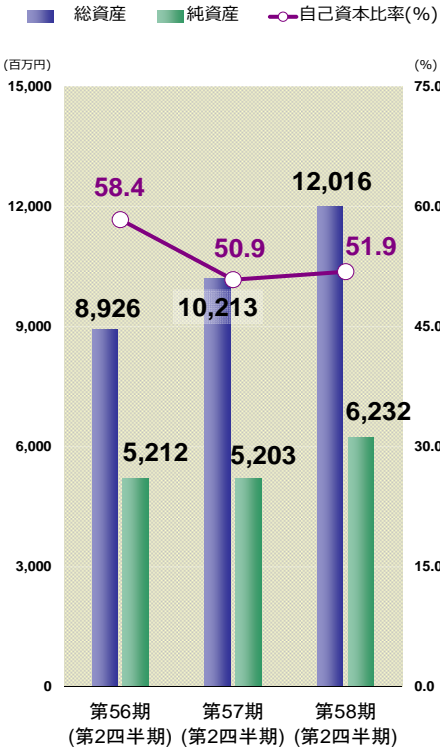
サービス事業の売上高は8億96百万円（前年同四半期比1.8%減）、セグメント利益は1億97百万円（同4.8%減）となりました。

量産効果・生産効率向上に伴う利益改善が進み、増収増益となりました。

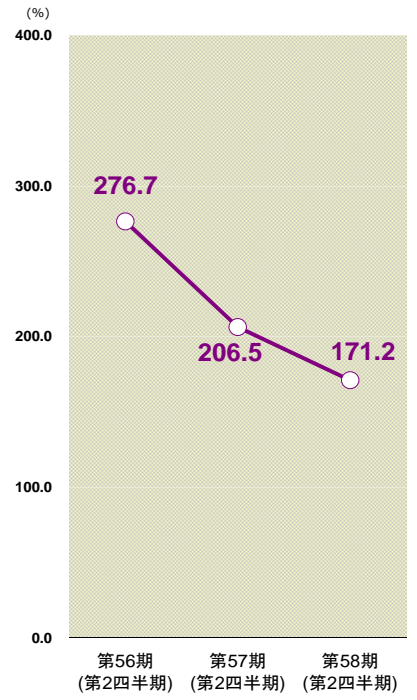
売上高・経常利益・売上高経常利益率



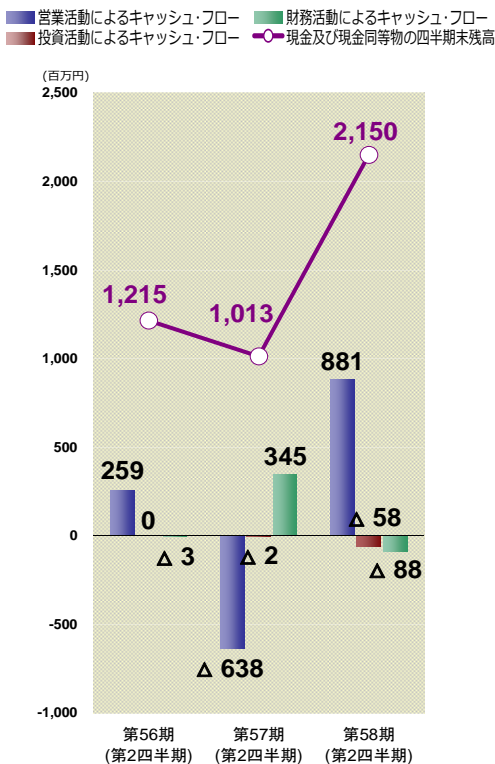
総資産・純資産・自己資本比率



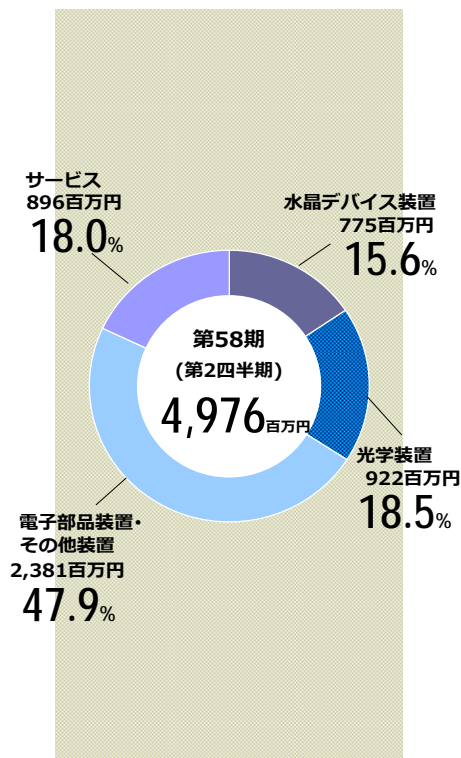
流動比率



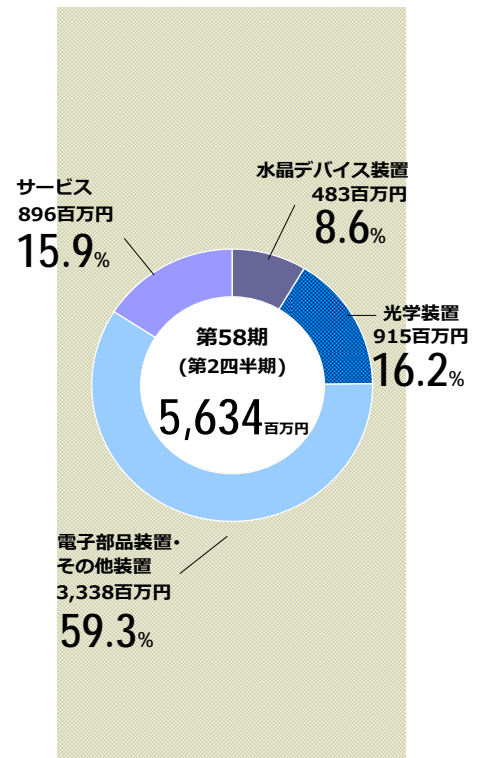
キャッシュ・フロー



品目別売上高構成比



品目別受注高構成比

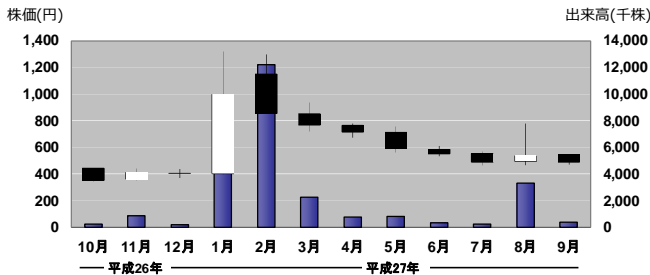


□ 株式の状況

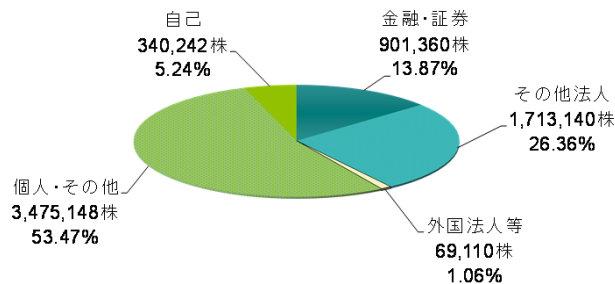
発行可能株式総数……………13,800,000株
 発行済株式の総数……………6,499,000株
 株主数……………2,958名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルバック	1,329,500	21.59
小俣邦正	567,600	9.21
有限会社小俣興産	341,440	5.54
株式会社昭和真空	340,242	—
昭和真空従業員持株会	212,952	3.45
小俣佳子	160,000	2.59
株式会社三菱東京UFJ銀行	145,000	2.35
小俣みつこ	120,000	1.94
日本生命保険相互会社	115,200	1.87
株式会社みずほ銀行	96,000	1.55
日本証券金融株式会社	83,200	1.35

□ 株価および売買高の推移(月次)



□ 所有者別株式状況(株式数)



□ 株主メモ

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同送付先・連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店
 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 3月31日
 その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め
 公告いたします。
 配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当金の支払を行う時は9月30日
 公告掲載方法 電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告
 によることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

□ 会社の概要

商号 株式会社昭和真空
 設立 1958年(昭和33年)
 資本金 2,177,105,200円
 従業員数 176名
 営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの
 総合的な真空関連装置ならびに真空機器等
 真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンプレーティ
 ング装置、ドライエッチング・アッシング装置、真空冶金(溶
 解、熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜用モニター
 (多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、液晶注入
 装置、有機EL用蒸着装置、その他
 取引金融機関 三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、
 八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

□ 事業所

本社・相模原工場
 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
 TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329
 大野台 パーツセンター
 〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

□ 役員(平成27年6月26日現在)

代表取締役社長	小俣 邦正	監査役	村木由之亮
執行役員		監査役	千葉 睿一
常務取締役執行役員	市川 正	監査役	高橋 誠一
取締役執行役員	高橋 理		
取締役執行役員	久島 博美		
取締役執行役員	田中 彰一		
取締役	末代 政輔		

□ グループ会社および関係会社

[グループ会社]

昭和真空機械(上海)有限公司
 ・所在 中国上海市
 ・主な事業内容 当社装置の生産
 昭和真空機械貿易(上海)有限公司
 ・所在 中国上海市
 ・主な事業内容 当社装置・部品の販売、
 サービス・メンテナンス

株式会社エフ・イー・シー

・所在 埼玉県狭山市
 ・主な事業内容 マグTRAN(歯のない歯車)の製造・販売

[関係会社]

Sansei-Showa Co., Ltd. USA
 ・所在 米国オハイオ州



□ IRカレンダー

11月	第58期 第2四半期決算発表・ 決算説明会	6月	第58回 定時株主総会 経営報告会
2月	第58期 第3四半期決算発表		有価証券報告書提出
3月 31日	第58期 決算日	8月	第59期 第1四半期決算発表
5月	第58期 決算発表	9月 30日	第59期 第2四半期 決算日